記者発表資料

平成２７年　８月２４日
東北地方整備局
北上川ダム統合管理事務所

胆沢平野・水稲の穂ばらみ期を守り抜く

～平成6年と同程度の厳しい渇水を胆沢ダムで乗り切りました～

胆沢ダム流域は平成6年以来、20年ぶりの大きな渇水に見舞われました。
胆沢平野は県内有数の穀倉地帯で有り、稲作で最も水を必要とする「穂ばらみ期」を胆沢ダム（管理開始2年目）により乗り切る事ができました。

平成6年は石淵ダムが7月下旬に取水不能となり、胆沢平野で延べ52日間に渡る「番水制」を強いられ、消防車による散水作業などを行いましたが、用水が行き渡らない地域では、水稲の立ち枯れ被害などが発生しました。
今年度の胆沢ダム流域の降雨は、過去5年平均を下回り、特に8月(21日まで)は渇水被害が生じた平成6年と同程度の降雨状況でした。

■胆沢ダム流域の降雨状況

過去、5年平均雨量を下回り、特に8月（21日まで）は平成6年と同程度

［8月流域平均雨量（月）］

・5ヶ年平均　　188mm
・平成6年　　106mm
・平成27年　　112mm（21日迄）　※5ヶ年平均の59%（同月比）

■もし石淵ダムであった場合、平成6年渇水と同程度の被害が想定

石淵ﾀﾞﾑで胆沢ﾀﾞﾑと同様の補給を行っていたら、7月上旬で補給不能

［石淵ダムと胆沢ダムの違い］

・(洪水期)利水容量：石淵ダムに対し13倍ある。（石淵6,360千m3、胆沢81,000千m3）

・平成27年は胆沢ダムにより、平成6年渇水時の約5倍の水量を補給し、稲作で最も水を必要とする大切な「穂ばらみ期」を乗り切った。
（8/21までに東京ドーム約60個分をダムから補給）

≪発表記者会：岩手県政記者クラブ、奥州市政記者クラブ≫

＜問い合わせ先＞
国土交通省　東北地方整備局　北上川ダム統合管理事務所
〒020-0123　盛岡市下厨川字四十四田1番地
副所長　　菅原（スガワラ）　裕彦（ヒロヒコ）　（内線 204）
（代表TEL：019-643-7831）

北上川ダム統合管理事務所　胆沢ダム管理支所
〒023-0403　奥州市胆沢区若柳字横岳前山6
支所長　　鈴木（スズキ）　松男（マツオ）　（内線 6121）
（代表TEL：0197-49-2981）

平成６年と同程度の厳しい渇水を胆沢ダムで乗り切りました

北上川ダム統合管理事務所

○　胆沢ダム（管理移行2年目）流域は、H6年以来、20年ぶりの渇水に見舞われた

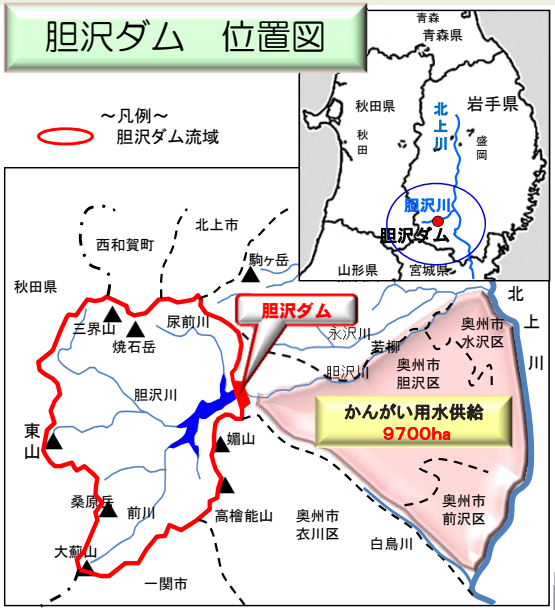
○　6月～8月の降雨は過去5年平均を下回り、特に8月（21日まで）はH6と同程度である

○　H6年は、渇水により石淵ダムが7月下旬に取水不能となり、胆沢平野の稲作は困難を極めた

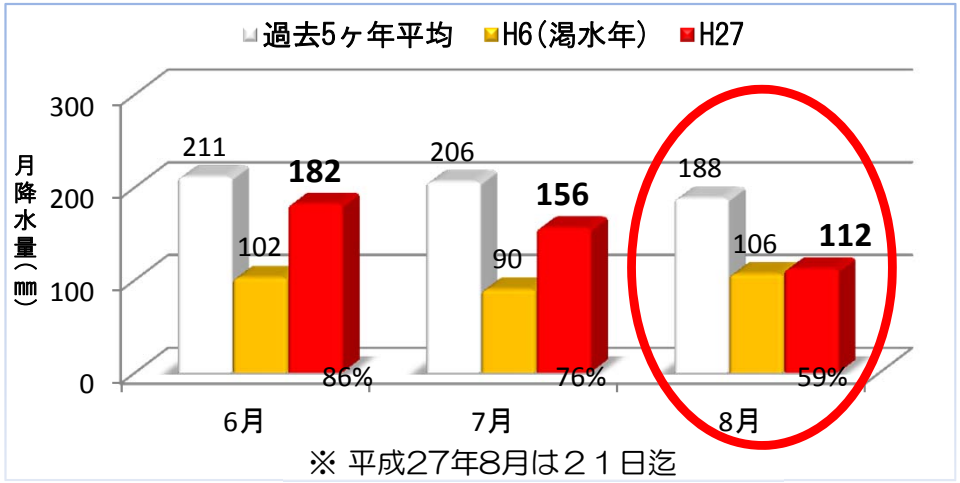
・延べ52日間に渡る「番水制」を強いられた他、消防車による散水作業を行った

・しかし、水田に地割れが走り、用水が行き渡らない地域では水稲の立ち枯れ被害が発生

胆沢ダム　位置図



平成２７年　胆沢ダム流域の降雨状況（流域平均雨量）



※ 平成27年8月は２１日迄

平成6年 干上がった石淵ダム



胆沢ダム全景



平成6年の渇水による被害状況

水稲の立ち枯れ



水田ひび割れ



消防ポンプによる散水

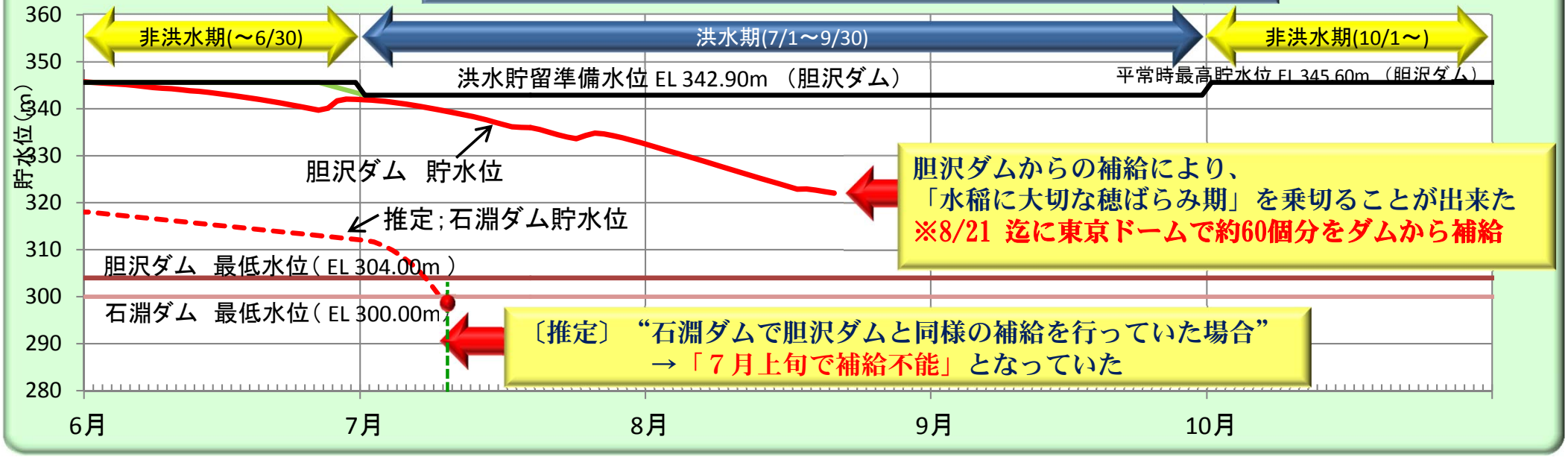


平成６年と同程度の厳しい渇水を胆沢ダムで乗り切りました

北上川ダム統合管理事務所

“胆沢ダムが完成する２年前迄の運用だったら平成６年渇水の再来だった”

Ｈ２７年　胆沢ダム貯水位　（推定；石淵ダム貯水位）

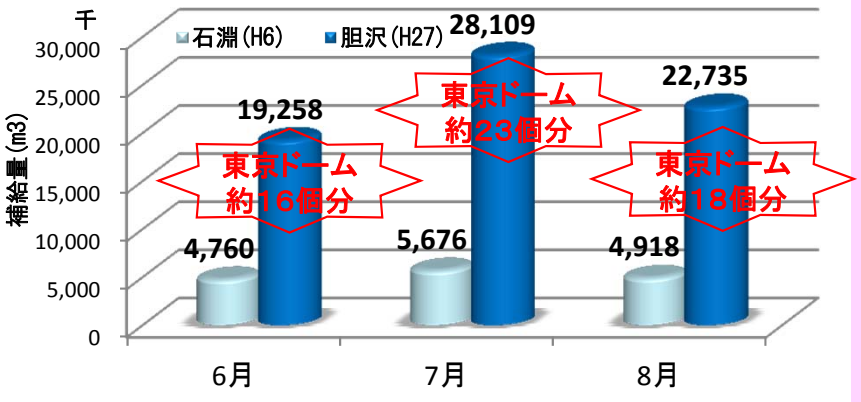


胆沢ダムからの補給により、
「水稲に大切な穂ばらみ期」を乗切ることが出来た
※8/21 迄に東京ドームで約60個分をダムから補給

〔推定〕“石淵ダムで胆沢ダムと同様の補給を行っていた場合”
→「７月上旬で補給不能」となっていた

かんがい用水補給量の比較（H6年とH27）

H27年は胆沢ダムにより、H6年渇水の約5倍の水量を補給



※ 平成27年8月は２１日迄

地元の声（H27年７月～８月に実施した農家へのヒアリング結果より）

- 今年のような渇水であっても、胆沢ダムで十分な水量が確保され満足している。
- 出穂時期、十分な水量で水不足の心配が無く安心感があった。
- 水路に十分な水が流れており、安心感は計り知れない。
- 水量が確保されているので水田を見回る手間が7割ほど減った。
- 従前であれば今年は間違いなく番水制で水管理を行っていた。今年は取水口の清掃、圃場の見廻り程度で済んだ。

H27水田の状況



